

概要

メルセデス・ベンツ F 015 Luxury in Motion: 移動するラグジュアリー

ラスベガス/シュツットガルト

メルセデス・ベンツは自動運転の実現可能性を S 500 INTELLIGENT DRIVE と Future Truck 2025 で既に実証しています。将来の自動運転を具現化したメルセデス・ベンツの新しいリサーチカー F 015 Luxury in Motion が、米国の国際家電見本市 (CES) において世界で初めてお披露目されました。メルセデス・ベンツが今後開発を進めていくベースとなる車です。この自動運転可能な高級セダンは、メルセデス・ベンツが「車」というものが単なる輸送手段に留まらず、その役割を越えて個人の憩いの場となることを提示しています。新しい移動手段は、貴重な移動時間を様々な形で活用できる自由を乗員に提供します。

常にパイオニアであるメルセデス・ベンツは、単に自動運転技術に留まらず、「自動的な車」から「自律的な車」への実現を進めています。自動車メーカーとして様々な展望と社会的傾向を予測しなければならず、その際に焦点をあてるのは社会に生きる「人々」です。1886年の Benz Patent Motor Car とその後継車たちは個人のモビリティに革命をもたらしてきました。これらの革命が社会全体に影響を与えてきたように初の自律的に運転する車も大きな変化をもたらします。

「技術だけに集中する人には、自動運転がいかに社会を変えるか理解できません。自動車は単なる輸送手段という役割を越えて、移動するリビング・スペースになります。」と、ダイムラー社取締役会会長兼メルセデス・ベンツ・カーズ統括のディーター・ツェツェは述べています。

表現力豊かなモビリティ革命の先駆者

ラウンジのような広々とした室内空間をもつメルセデス・ベンツ F015 Luxury in Motion はこれまでの快適性とラグジュアリーの概念をさらに高めます。メルセデスの「モダン・ラグジュアリー」、感情と知性に対する解釈をこの車はあらゆる側面で完璧に表現しています。この革新的な4人乗りセダンはモビリティ革命の先駆者であり、そのことが一目でわかる未来的な姿をしています。

F015 は全く新しい車の概念が描くビジョンを具現化していることが独特なプロポーションから見て明らかです(全長/全幅/全高:5220/2018/1524 ミリメートル)。一体成型の継ぎ目のないエクステリアとフロントとリアに配置した大きな LED パネル。この LED には様々な照明機能を適用することができ、同時に LED を通じて車外と相互にコミュニケーションします。F 015 が自動運転しているか(青)、手動で運転されているか(白)、LED の色で見分けることができます。

低めのフロント、滑らかで流線形のルーファイン、フラットなフロントガラスと路面に吸着するようリア、F 015 Luxury in Motion は伸び伸びとしたダイナミックなシルエットになっています。F 015 Luxury in

これは、2015年1月5日にダイムラーAGから発表されたプレスリリースの日本語抄訳です。

Motion の通常よりも大きな 3610 ミリメートルのホイールベースと短いオーバーハングは、何よりも乗員のスペースを最大限確保するためのデザインです。

幸せを感じるラウンジのようなインテリア

F 015 Luxury in Motion のデザイナー達は優雅で高品質、明るく気持ちのいいラウンジのような雰囲気の内空間を作り上げています。官能的で流れるよう成形、3 次元に細工されたウォールナットウッドパネル、極めて柔らかい真っ白なナツパレザーといった有機的な暖かい素材とともにクールで技術的な感触をもつ明確なラインの金属とガラス面が好対照をなしています。

乗員が向かい合って座れるように設計された可動式シートシステムは、回転する 4 つのラウンジチェアからなる革新的な室内コンセプトです。車の乗り降りを容易にするため、ドアを開けるとパワーシートが外に 30 度スイングします。運転席と助手席の乗員が必要に応じて、注意と目を正面に向けることもできます - 手動運転の場合は必須です。その場合ハンドルがダッシュボードから自動的に伸びるようになっていきます。

ラウンジチェアは、曲線をつけて磨きあげたアルミニウムに革で覆ったクッションが取り付けられています。各シートは手動でも向きをかえることができ、コントラストをつけるため帯状の青い LED ライトが側面に配置されています。

リサーチカーの重要な特性は、車両、乗員、外界の間で常時情報交換がなされていることです。インストゥルメントパネル、リアとサイドパネルにバランスよく配置された 6 つのスクリーンがコミュニケーションを可能にし、同時に F 015 Luxury in Motion の室内をデジタルアリーナに仕立てています。乗員は、動作や目の動き、または高解像度スクリーンに直接接触れることで、直観的に車両とインタラクティブな操作ができます。センサーは乗員の手の動きを認知し、状況に応じて適切なオプションを提示し、操作が容易なユーザーインターフェースを提供します。またスクリーン上のパーティクルストリームで車両の動きが視認できます。

革命的な車両構造

F 015 Luxury in Motion の高強度ボディは乗員の最適な安全性と最高の快適性を確保します。ボディースェル構造は、車の乗り降りがしやすい理想的なドア設計および乗員のコミュニケーションを促す 4 座の対面式ラウンジチェアの配置の基礎となっています。

F 015 の高効率「Smart Body Structure (SBS)」を実現するため新しい素材と構造を採用しました。熟練のエンジニア達が炭素繊維-強化プラスチック(CFRP)、アルミニウムと高剛性鋼板を巧妙に組み合わせることにより、多岐にわたる各要件を正確に満たした上、今日生産されているボディに比べ40%軽量のボディを生み出すことに成功しました。

ボディ設計のコンセプトでもう一つの重要な点が、革新的なリアヒンジ-リアドアを特徴としたサルーンド

これは、2015年1月5日にダイムラーAGから発表されたプレスリリースの日本語抄訳です。

A・スタイルのドア・システム(観音開き)です。前後のドアは、独立して開閉します。すべてのドアが90度開き、広々とした室内空間に両側から気持ちよくアクセスできます。Bピラーは必要なく、相互連結している頑丈な機械式ロックを採用しているため、模範的な安全基準を満たしています。閉じている時は前後のドアを連結してロックがかかり、同時にルーフフレームとサイド・スカートをしっかり固定します。その結果生じた合成荷重経路は、正面および側面衝突の衝撃のエネルギーを高度に吸収し、室内への侵入を最小限に食い止めます。

ドア自体がパッシブセーフティの大事な役割を担っています。衝撃を受けて作動するサイドウィンドウ下のベルトラインが重要となります。以前ESF 2009 Experimental Safety Vehicle発表の際に公開され、さらに強化されているPRE-SAFE Structureは最小限の空間で最大限の安全性を提供します。側面衝突の瞬間、側面の構造物がエアバッグのように「膨らみ」衝撃エネルギーを吸収します。

さらにF 015 Luxury in Motionのボディシェルは、燃料電池と電気駆動システムの組み合わせに要する衝撃保護に適合する設計となっています。2011年発表のリサーチカーF 125!に搭載され、時代を先駆けたF-CELL PLUG-IN HYBRIDシステムをベースに車載発電と非常にパワフルでコンパクトな高圧バッテリーを組み合わせています。CFRP製の高圧タンクは水素を貯蔵できるよう設計されています。

ビジョン:あらゆる都市居住者の生活向上を目指す

F 015 Luxury in Motionを開発する基盤とするためメルセデス・ベンツの各分野のエキスパートが結集し、多くの機動的な生活側面を考慮に入れた「未来の都市 2030+」という題の将来のシナリオを作成しました。

都市化が進むほど個人のプライベート空間への逃避願望は強くなります。自動運転は、当たり前となり、ドライバーが仕事とストレスから解放され、運転しても楽しくない状況下で、移動中に得る自由な時間は全く違った質を生み出し、将来の贅沢とは「時間」と「空間」になります。

新しい技術とコミュニケーションの形は、車と乗員間また車と他の道路利用者間の交流に多彩な新しい可能性を開きます。

自動運転可能な車は、都市のインフラ設計の新しい可能性をも開きます。今日都市部での低エミッションゾーンの例で見られるように自動運転可能な車だけアクセスできる特別なセーフティゾーンを設けることができます。自動運転可能な車は自ら都市周辺まで移動し、駐車できるため、都市の中心部に再び空間を取り戻します。

共有スペースが多くなる将来、機械と人間が道路を共有するようになります。個人の自由を奪うことなく、「車にやさしい町」は徐々に「人にやさしい町」に変遷します。住居用、レクリエーション用、交通用といった空間の領域は消滅していきます。その結果、都会の住民はどこに行っても質の高い生活が望めます。

これは、2015年1月5日にダイムラーAGから発表されたプレスリリースの日本語抄訳です。

自動運転への道のり

現在既にメルセデス・ベンツの車は、路上で発生する多くの危険な状況を検知し、その状況に合わせて反応します-例えば自動ブレーキのように。CクラスからSクラスまで、今日の公道で既に部分的自動運転で走行しています。例えば渋滞しているとディストロノック・プラス(ステアリングアシスト付)で先行車に追従して走行します。またアクティブパーキングアシストはステアリングとブレーキを自動制御し、縦列・並列の自動駐車が可能です。

2013年8月メルセデス・ベンツは、複雑な都市および市街地の交通状況でさえ、自動運転が可能だという事を大胆に実証しました。メルセデス・ベンツの量産車に近いS 500 INTELLIGENT DRIVEはマンハイムからプフォルツハイムまでおよそ100km、1888年にカール・ベンツの妻ベルタが世界初の長距離走行を敢行した同じ道を完全に自動運転で走破しました。

メルセデス・ベンツはトラックでも知的な運転支援システムのイノベーターおよび先駆者として開発のペースメーカーを務めます。2014年9月IAA Commercial Vehiclesで世界初の自動運転可能なトラック「Future Truck 2025」を披露しました。2014年7月メルセデス・ベンツ Actros 1845をベースにしたFuture Truck 2025は、マグデブルク近くのA14アウトバーンの一区画で一度だけ実際の交通状況において最高速度80km/hで走行しました。

メルセデス・ベンツはグローバルカンパニーとして、世界中で自動運転が可能になることを視野にしています。各市場の交通状況やインフラの違いに適応するため、社内のエキスパートが各国でテストを行っています。一例として2014年9月中旬、メルセデス・ベンツは自動車メーカーとして初めて公道で自動運転のテスト走行を行う公式許可証を米国カリフォルニア州から取得し、コンコルド海軍武器補給所(CNWS)という軍敷地内にある米国最大の試験施設を利用しています。